

事前照会でいただいたご意見について

計画の見直しにあたって

既存の計画・ルールへの反映と整理統合の必要性
(知床財団)

既存の関連計画・ルールには有効性を欠いているもの、策定主体が解散しているものがある
例：利用適正化基本計画
(公園管理計画に統合・廃止)

既存の計画・ルールはその時々が必要に応じて追加 → 体系的整理がされていない

既存の計画・ルールの整理統合を進めるべき

「管理の方策」について評価が必要
(知床財団)

・達成された事項 ・未着手/後退した事項
・継続的に取り組む事項
・前提が変化し、取り下げる事項 など

計画の進捗把握
全体構成の組み替え後の関係性を把握

重大事故を踏まえた見直しが必要
(知床財団)

R4.4.23発生の海難事故
・多数の人命が失われる
・遺産地域内で発生
・地域産業、観光船業界への甚大な被害

安全安心・人心の安定なしに適正な管理は成り立たない
(適正利用・エコツーリズムの大前提)

事故の影響や反省を踏まえ、安全管理の必要性とその方策について記述すべき

地区区分のあり方について
(知床財団)

管理計画の最も重要な要素のひとつであるが、見直しの議論においてあまり言及されていない

保護区面積拡大の国際的な流れの中、遺産地域の拡大も視野に検討

保全と利用において「A」「B」の線引きは適切か、今後の施策と不整合はないか
利用実績や知床の変化に対応しているか

「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」の成果である『ゾーニングイメージ案』を次期計画に盛り込むことを提案する

特別天然記念物・天然記念物（特に鳥類）の取扱いについて配慮願う（北海道教育庁）

知床の変化について気づいたこと

自然が荒れ、動植物が大きく減少し、多様性が失われてきていると感じる（知床ガイド協議会）

トガリネズミが見られなくなった

春にオオジシギ、ヒバリの鳴き声が聞けなくなった

夏にカッコウの鳴き声が聞けなくなった

ナニワズの群生がなくなった

花が咲く前にナニワズの新芽がエゾシカに食べられる

残雪の減少（以前は5月連休前で2m以上→現在は3月下旬で0）

雪解けの早まりにより河川・地下水の減少が目につく（五湖も減水）

ウミウ、ウミネコ、カモメ類の繁殖営巣が見られない

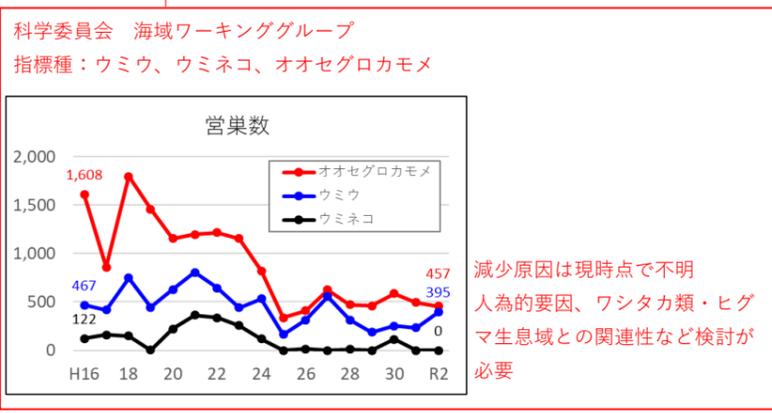
喫緊の課題として笹対策が必要
(笹がなければ植物の多様性が増す)

草原がなくなり笹原とワラビだらけになったのが原因？

エゾシカを減らした結果、笹の新芽が食べられなくなった

温暖化の影響？

イカナゴが少なくなったのが原因？



ヒグマ対策について

ヒグマ対策
(知床ガイド協議会)

市街地では「ヒグマ対策」が重要ですが、公園内では「人間対策」を中心に考えるべき

クマ渋滞を避けるためにクマの餌である果樹を伐採するのは本末転倒

強制力のある対応が必要

イエローストーン国立公園では、職員の注意を聞かずに写真撮影した観光客に4日間の拘留と1000ドルの罰金の事例

笹の丈が伸び、ヒグマが隠れやすくなっている

自然公園法改正 (R4.4.1~)
知床国立公園におけるヒグマへの接近等の行為の規制
職員の指示に従わず、みだりに上記行為をした場合には30万円以下の罰金

地域連絡会議のあり方について

地域連絡会議における合意形成機能、実質的な議論の充実が必要（知床財団）

科学委員会と地域連絡会議は遺産管理の2枚看板
遺産地域としてのビジョン共有、合意形成と意思決定の場は地域連絡会議以外にない

保全・利用両面での地域意見の吸い上げ、利害対立を乗り越える合意形成機能が求められる

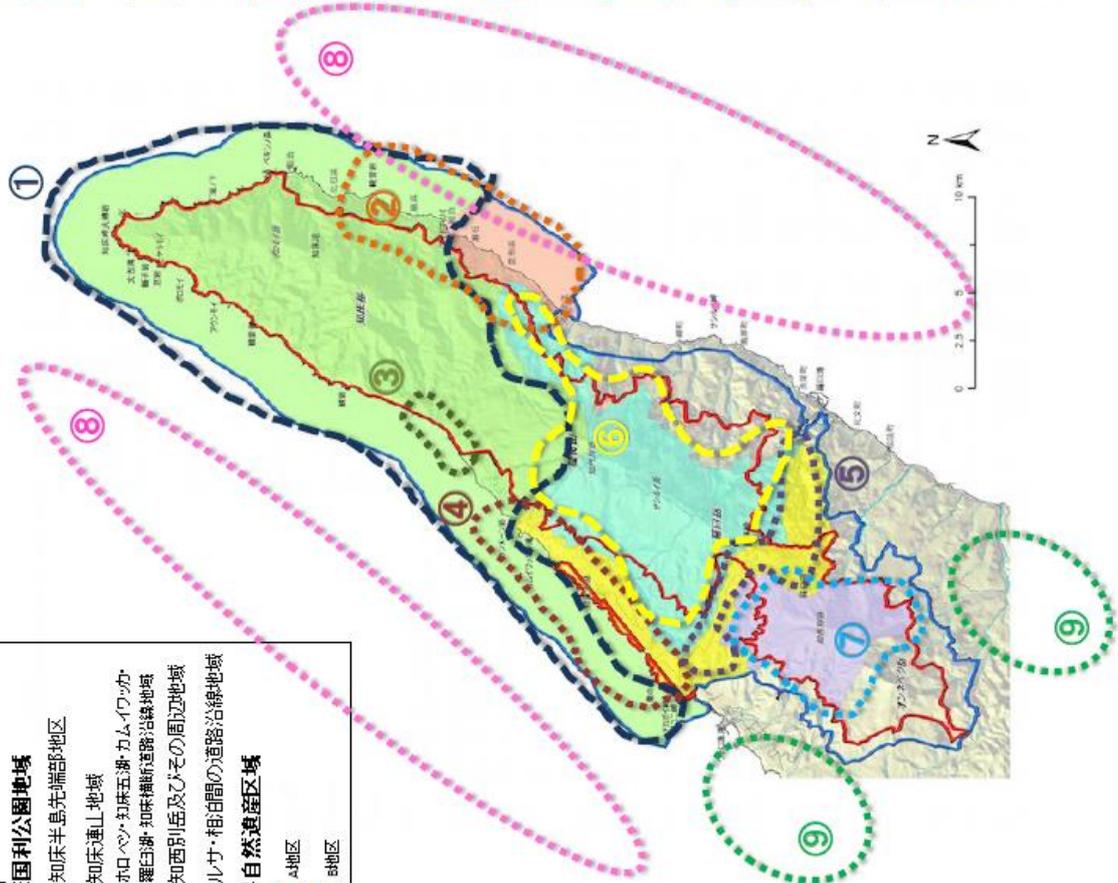
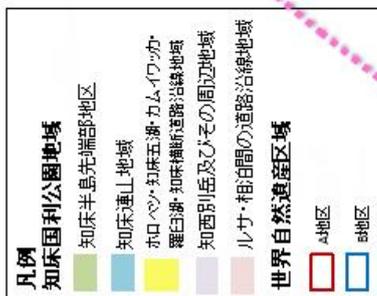
近年の会議は報告と共有のみの場となっている

管理計画の見直しを機に、事務局・参加者ともに地域連絡会議の位置づけや役割の確認から再開してはどうか

※赤枠については事務局の補足

【参考1】知床の利用のあり方に関するゾーニングイメージ案

2017年~2018年度開催「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」
資料：ゾーニングとイメージ(案) より抜粋



- ①先端部地区全域 (冒険と原生の旅)
容易にアクセスできるフィールドでのアクティビティやスポーツの登山、トレッキングとは一線を画した「冒険と原生の旅」。ヒグマとの出会いや険しい地形、荒れる海のリスクを乗り越えて、野営しながらたどり着く感動の到達感。日本離れした大風島と非日常の神秘感を提供することに特化する。旅の過程で、豊かな海を糧に生きる人々との出会いや交流も大切な思い出となる。
- ②羅臼先端部海岸線ルサ〜観音岩 (番屋の営み、フィッシュリャーリゾートム)
羅臼の豊かな海を糧に、「番屋」という知床ならではの営みの場における暮らしを積極的に発信。浜に根ざして生きる人々との出会いや交流も重要な体験要素とする。
- ③先端部地区ルシャ (知床の核心を見る、ワイルドライフウォッチング)
サケマスの遡上・産卵とヒグマや猛禽類などの捕食による陸と海の繋がり、世界遺産の核心を学ぶ。圧倒的なヒグマ体験。全国で傳説するクマ問題への普及啓発の場。人々を思考停止にしている恐怖の猛獣という誤解を解き、自然な生き様を知る場とする。共存の道を模索するきっかけ作りの場とする。
- ④ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ (多様な知床体験ニーズに応える)
観光バスやシャトルバスを利用した周遊観光から、比較的手軽なバックカントリー利用まで多様なニーズに応えることができる地域として活用していく。標準化させることなく他と差別化した知床独自の体験を提供する工夫、ヒグマ等との取懸回避対策が求められる。
- ⑤羅臼湖・横断道路沿線地域 (知床味の景観を楽しむ、手軽な周遊観光と羅臼湖、深い森を味わうことが出来るボン・ホロ沼などを楽しむ。)
車両を利用した周遊観光から、2時間程度で比較的手軽な高山バックカントリー体験が可能な羅臼湖、深い森を味わうことが出来るボン・ホロ沼などを楽しむ。
- ⑥知床連山地域 (知床を象徴する山並み、高所に海を眺む希有な山岳体験の場)
海にそそり立つ連山の後線に到達する満足感。眼下の両側は海、はるか国後島・エトロフ島までの眺望は、他では得がたい感動を得ることが出来る。広大なハイマツ帯や雲田群落の高山植物も知床の山の魅力である。基本的に中級以上の登山者を対象とした山域として管理し、必要以上の整備は行わない。
- ⑦知西別岳及びその周辺地域 (人気の少ない知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールドとしての展開を探る)
羅臼湖入口へのアクセス方法を検討できれば、残雪期のすばらしいフィールドになり得る。根室海峡にめがけて滑り下る知西別岳から滑ノ沢までのロングダウンヒルコースは感動も。
- ⑧先端部地域沿岸海域 (シヤチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流氷が割り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる)
ウトロ〜知床岬に続く断崖と大風島、海岸で見ることが出来るヒグマや猛禽類、海鳥など野生との出会いの濃さは知床ならではの。羅臼の海、根室海峡はシヤチやクジラ、イルカなど大型海洋哺乳類との感動の出会いの場。大型猛禽、トド、アザラシ類を対象とする冬季の観光船事業も充実が望まれる。
- ⑨半島基部 斜里岳・海別岳山麓 (雄大な農業景観と知床ならではの背景の組み合わせは感動を呼ぶ)
斜里平野から周辺の山間野山麓部については、人気の観光地である富良野盆地周辺に比して勝るとも劣らない美しい風景を有している。また、葦床地区の広大な牧草地とは異なる知床の風景も実は大きな潜在性を有している。しかし、そこに欠けているのは来訪者をもてなす仕組みや人の存在、そして魅力的な「食」である。両地域で生産される作物や畜産物、そして知床ならではの海の幸を洒落た形で提供できる宿泊施設・レストラン等を展開し、知床の観光の新たな分野を切り開く。乗馬やスキーモービーレのツーリングコースの設定など、国立公園内では難しいアクティビティの展開も可能だろう。

国指定（選定）・道指定文化財

指定	市町村	種別	名称
国	斜里町	史跡	チャシコツ岬上遺跡
国	羅臼町	重要文化財	北海道松法川北岸遺跡出土品
国	—	特別天然記念物	タンチョウ
国	—	天然記念物	北海道犬
国	—	天然記念物	ウスバキキョウ
国	—	天然記念物	ダイセツタカネヒカゲ
国	—	天然記念物	アサヒヒョウモン
国	—	天然記念物	クマゲラ
国	—	天然記念物	イヌワシ
国	—	天然記念物	カラフトルリシジミ
国	—	天然記念物	オジロワシ
国	—	天然記念物	オオワシ
国	—	天然記念物	エゾシマフクロウ
国	—	天然記念物	コクガン
国	—	天然記念物	ヒシクイ
国	—	天然記念物	マガン
国	—	天然記念物	ヒメチャマダラセセリ
道	斜里町	史跡	斜里朱円周堤墓群
道	斜里町	有形文化財	斜里朱円周堤墓群出土品
道	斜里町	史跡	朱円竪穴住居跡群
道	斜里町	天然記念物	斜里海岸の草原群落
道	斜里町	天然記念物	オシュンコシュン粗粒玄武岩柱状節理
道	羅臼町	天然記念物	羅臼のひかりごけ
道	羅臼町	天然記念物	羅臼の間歇泉